

令和 3 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	文化交流センター事業	会計名称	一般会計		担当課	社会教育課	
		予算科目	10 款 5 項 6 目	事業番号	4893	所属長名	泉一人
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	田村政幸	
法令根拠等	伊予市文化交流センター条例				実施期間	【開始】	令和/平成 1 年度
総合計画での位置付け	生涯学習都市の創造 個性豊かな文化の振興					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	文化活動の推進						
事業の対象	市民			事業の目的	より多くの市民が文化・芸術に対する関心を高められるよう、優れた文化活動や芸術作品に接する機会を提供し、また、市民が自由に活発な芸術活動ができる環境づくりを行う。		
事業の内容 (整備内容)	・市民総合文化祭支援・市民和太鼓楽団発足支援・文化ホール関係イベント支援他・市民大学講座			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	3年度予定	9月末の実績	3年度実績
直接事業費	3,179	4,918	1,342	0	0	4,429	市民文化祭	人	4439	500	0	567
財源内訳												
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他		0	0	0	0	0	文化交流センター自主事業	人	3355	1000	400	1339
一般財源	3,179	4,918	1,342	0	0	4,429						
職員の人工(にんく)数	1.10	0.80				0.80						
1人工当たりの人件費単価	7,812	7,841				7,841						
※ 直接事業費+人件費	11,772	11,191				10,702						
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		報償費、委託料、負担金							
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	5年間の合計		
					5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	25,000		
成果指標	指標	設定しない	単位	⇒	区分年度	前年度	3年度	4年度	目標	毎年度		
			なし		目標	-	-	-	-			
	指標設定の考え方	従来、本施設の基本理念「学びはぐみつながる出会いのひろば」を目指し、取組む文化芸術活動等各種イベントへの参加者数により関心度・貢献度を計っていたが、コロナ禍の環境にあった文化振興イベントの質的向上を求めらることから、当面は定量的指標を設定しないこととする。	実績		-	-						
	指標で表せない効果	中心市街地活性化への効果、中山・双海地域との連携効果など										

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		コロナ禍による休館などが事業遂行に大きな影響を及ぼす。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	5	合計点が	A	事業成果・工夫した点	市民大学講座などでは、受講生に対するアフターフォローのため、オンラインによる復習ができるようYouTube配信を行った。		
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市の関与しない、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4						
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。	4	合計点が	A				
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4						
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4						
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題	特になし。			
		コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4							
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	5							
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。	4	合計点が			A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 文化行政として、文化芸術団体の育成及び質の高い文化芸術の提供など文化振興等の充実について、今後も継続実施する必要がある。
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。	4						
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3						
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。	3	合計点が	A					
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3							
		施策への貢献度	5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。	4							
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。	3	合計点が	A	所属長の課題認識	文化芸術活動について、団体自身が存続・発展を目指して活動を推進することが望ましく、そのために行政として継続して支援を行い、伝承・保存や発表の場の創出に努め、市民の関心を高め、個性豊かな文化の振興を推進する。				
	コスト効率	5 4 3 2 1 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。	4								
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3								

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	